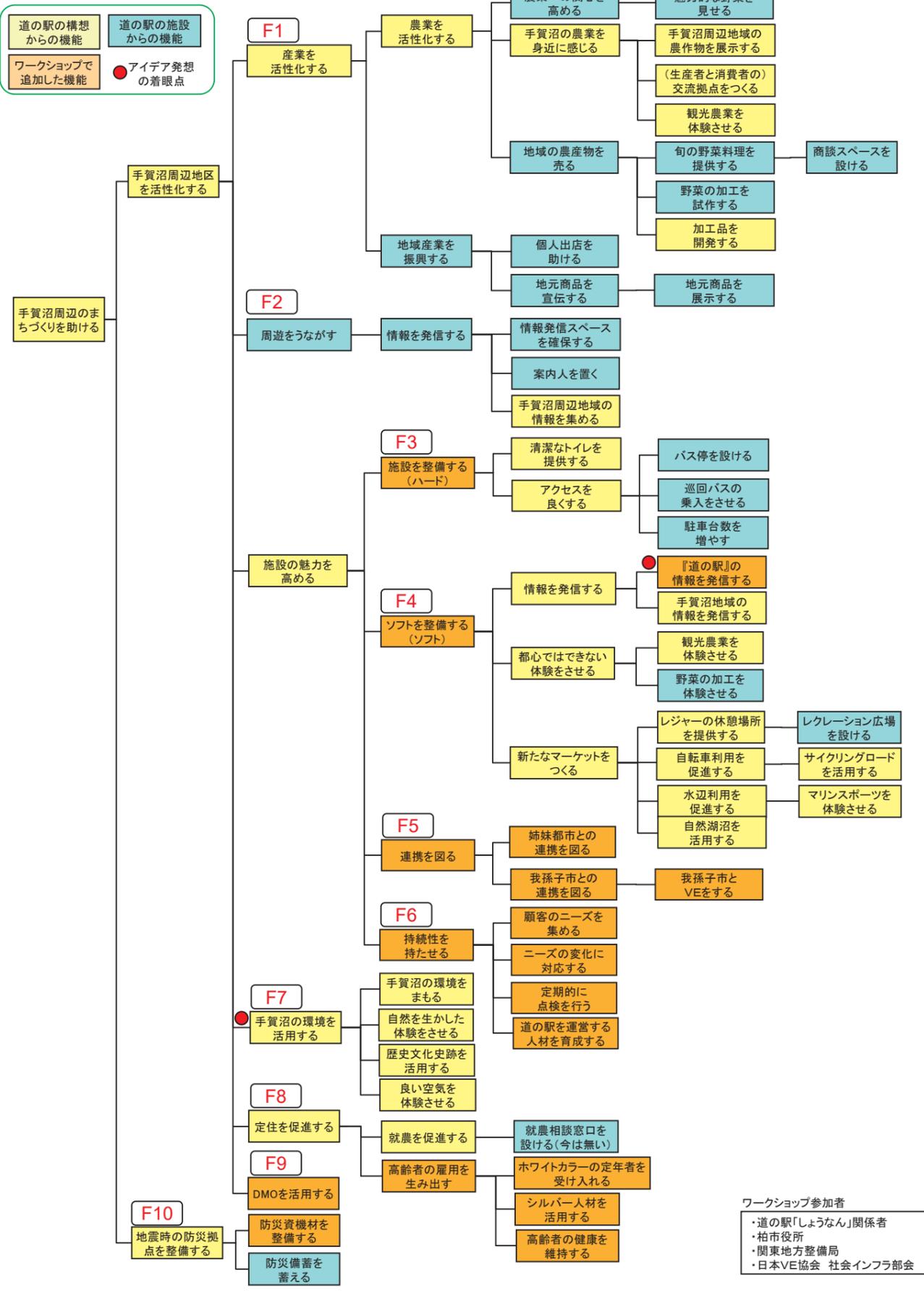


道の駅『しょうなん』の機能系統図

2018/02/20



道の駅の価値向上の取り組み

道の駅 VE の取り組み

近年、道の駅には、さまざまな機能が期待されています。道の駅の計画を適切に進めるには、地域の方々が地域に求められる機能を吟味し、工夫しながら進めて行くことが重要です。VEは、求められる機能を明確にし、必要な機能を果たすアイデアを発想する技術であり、国土交通省では、これまでも公共事業の価値向上にVEを活用してきました。本取り組みでは、道の駅の計画にVEを活用することにより、道の駅の機能をより丁寧に検討し、道の駅の価値向上を目指しています。道の駅の新規計画・リニューアルに、道の駅の機能を整理し、新たなアイデアを創造するツールとして、ぜひ、VEをご活用下さい。

VE (Value Engineering) とは？
 VEとは、製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのためにかける「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法です。使用者優先、機能本位で考え、様々なアイデアを生かし現状を打破する。そのために英知を結集したチーム・デザインを行います。そして、機能とコストの両面から製品やサービスの価値の向上を図っていく、それが、VEの考え方です。

道の駅「しょうなん」の取り組み
 手賀沼周辺地域は、首都圏 30km 圏内では貴重な、日帰りによる観光やレクリエーション等で訪れることができる都市近郊の農村地域です。手賀沼周辺地域では、地域活性化を図るため、手賀沼アグリビジネスパーク事業が進められています。道の駅「しょうなん」は、この取り組みの中で、この地域と都市部をつなぐ玄関口として期待されています。



道の駅「しょうなん」におけるVEワークショップ

今回の取り組みでは、道の駅「しょうなん」の再整備計画を対象にVEワークショップを実施し、VEの手法である機能系統図を使って、この道の駅に求められる機能を整理しました。また、機能を元にアイデアを出しました。

情報収集

● 道の駅周辺の情報

地域の概要
地域の課題
地域の資源
関連施策

● 上位計画の情報

経緯
方針・目的
ターゲット

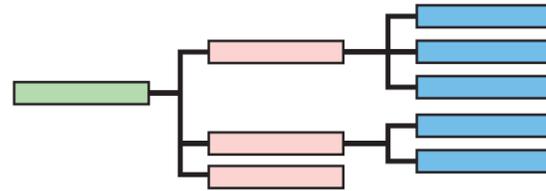
機能の定義

この道の駅に求められる「機能」を出します。
機能とは、道の駅が提供する「サービス」や「はたらき」です。
機能は、目的・方針・建築物の形状・イベント等から抽出します。「～を～する」。

機能の整理

目的と手段の関係で、道の駅に求められる「機能」を整理します。
これにより機能をいくつかのグループに分けて捉え、改善検討を進めやすくします。

目的 ↔ 手段



評価

「機能」について評価し、問題がある「機能」を選びます。
問題がある機能から改善アイデアを考えることにより、アイデアの方向性を揃えます。

アイデア発想

改善アイデアを検討します。
機能からアイデアを出すことにより、アイデアを出しやすくします。
批判厳禁・自由奔放に考え、評価は後で行います。



道の駅の機能を検討する際の司会進行役として、VE協会のVE有資格者が協力した。

VEワークショップの結果

道の駅の計画において、VEの「機能の定義・機能の整理」を行い、機能系統図に整理することにより、地域の特性を踏まえた必要な機能が整理できました。

※機能系統図は裏面をご覧ください。

また、機能系統図を活用した「アイデア発想」により、実現性が高い新たなアイデアが提案されました。

ワークショップで検討したアイデアシート（一部抜粋）

機能分野：手賀沼の環境を活用する アイデア発想・概略評価					
NO	アイデア	概略評価	NO	アイデア	概略評価
1	つなぎがブランド	○	1	水上コンサート	○
2	鴨がブランド	○	2	ガシャク	○
3	自然回復を学ぶ	○	3	フラワーロード	○
4	カフェ	○	4	レンゲを植える	○
5	島を学ぶ	○	5	蓮の花	○
6	竹林を回復する	○	6	休耕地にひまわり	○
7	自然体験の場	○	7	緑道沿いに花を植える	○
8	水辺を活用する	○	8	空心菜を植える	○
9	スワンボート	○	9	用水路をきれいにする	○
10	屋形船	○	10	ロシア正教の産着を履く	○
11	観水公園をつくる	○	11	日本最初のサンタクロース	○
12	魚を釣る	○	12	前方後円墳	○
13	外来種を釣る	○	13	昔の高級住宅地	○
14	浮島をつくる	○	14	何かの養殖	○
15	水質を改善する	○	15	ふくの養殖	○
16	水上レストラン	○	16	キャビアの養殖	○
17	水上シアター	○	17	串に泊まる	○
18			18	鳥にシャクワリ	○
19			19	お祭りの活用	○
20			20	精霊の守人	○
21			21	巨大ウナギ伝承	○
22			22	手賀沼伝説	○
23			23	マイ田んぼ	○
24			24	田んぼアート	○
25			25	手賀沼アート	○
26			26	まぼろしの真ジミ	○
27			27	漁業体験	○
28			28	いっかだづくり	○
29			29	サイクリングコース	○
30			30	レスキュー訓練	○
31			31	淡水真珠の養殖	○

機能分野：情報を発信する(1/2) アイデア発想・概略評価					
NO	アイデア	概略評価	NO	アイデア	概略評価
1	【テレビ】 面白い番組、企画	○	1	情報がリアルタイム	○
2	人気のある人をだす	○	2	無料で提供	○
3	食べ物を取り扱う	○	3	24時間提供	○
4	高齢者に気に入られる	○	4	情報のメニューが多い	○
5	短い時間でインパクト	○	5	目的に合致した情報	○
6	一度に大量の人に情報渡す	○	6	【SNS】 シェアできる	○
7	穴場情報	○	7	自分も発信できる	○
8	視聴者プレゼント	○	8	友達に「イネ」	○
9	○分以内に申し込み	○	9	知らない人に「イネ」	○
10	参加型で応募	○	10	機能が共通の人とつながる	○
11	スイッチ一つで情報が出る	○	11	【マイナーな情報でも発信できる】	○
12	チャンネルを選べる	○	12	24時間リアルタイム	○
13	空撮する(ドローンで)	○	13	いつでもどこでも発信できる	○
14	ドローンの練習場	○	14	情報が蓄えられる	○
15	画質がきれい	○	15	情報を検索できる	○
16	生放送も提供できる	○	16	沼チャンネル	○
17			17	スマホとつながる	○
18			18	場所を選ばない	○
19			19	地図(位置情報)と連動	○
20			20	テーマで募集→発信	○
21			21	国境が関係ない	○
22			22	【新聞】 正しい情報が多い	○
23			23	毎朝届く	○
24			24	4コマ漫画	○
25			25	色々な情報が総合的に提供	○
26			26	情報が整理されている	○
27			27	記事の大小を分けている	○
28			28	じっくり読める	○
29			29	字を大きくしている	○
30			30	情報が取り込まれている	○
31			31	大量に刷ってコストが安い	○
32			32	社説で見識	○

VEワークショップ参加者の意見

- ・機能系統図を作成したことにより、取り組むべき役割が明確になり事業を展開していける。有意義な取り組みであった。
- ・このVEを実施してから設計をすればよかった。今後の設計に活用していきたい。
- ・機能系統図の作成により、必要な機能について頭の整理ができた。
- ・今回2日間で出来なかった他のテーマについても実施してみたい。
- ・今回、機能が整理できたことで、よい道の駅の整備ができればと思っている。
- ・機能系統図を作成することにより、目的と手段が明確になることを理解した。
- ・計画をつくるときには、この目的と手段を明確にすることが重要であり参考となった。
- ・アイデア出し等はこれまでも実施してきたが、VEを実施し機能系統図を作成することなど、整理の方法が勉強になった。
- ・VEはコスト削減だけというイメージを持っていたが認識が改まった。新しく道の駅を考える自治体にとって、地域の実情に即したより魅力ある道の駅に近づける上で良い手法ではないか。